

県立図書館だより

令和 4 年 2 月

青森県立図書館報 第 42 号

デジタルアーカイブから



『歩兵第五連隊八甲田山遭難写真 [4]』（1902 年）

(https://da.plib.pref.aomori.lg.jp/archives/detail?cls=collect_01&pkey=t0282_04)

今から 120 年前の明治 35 年（1902 年）1 月、雪中行軍演習中の青森歩兵第 5 連隊が八甲田山中で遭難、199 名が死亡した。写真は田茂木野村遭難事件事務所の様子。

目 次

デジタルアーカイブから	1
「座標」に集った人々展	2
電子書籍の導入について	3
こどものひろば	4～5
ご存じですか？この資料 郷土資料の紹介	6
ようこそ文学館へ！ 近代文学館資料の紹介	7
カウンターからひとこと	8～9

青森県近代文学館 企画展

「座標」に集った人々展

文芸雑誌「座標」は、昭和5（1930）年1月に青森で誕生しました。「東奥日報」記者だった竹内俊吉の提唱により、「黎明」や「獵騎兵」等、複数の雑誌を統合し創刊した県下統一の文芸誌であり、初期には丹羽洋岳、一戸玲太郎（一戸謙三）、高木恭造、青木了介（今官一）、大藤熊太（太宰治）、和田山蘭、林柁次郎らも作品を寄せました。その後「座標」は、文学上の主張の相違により多くのメンバーが離脱し、昭和7年に廃刊となりましたが、青森県の文学史に確かな足跡を刻みました。

淡谷悠蔵らとともに歌誌「黎明」を創刊し、「座標」では編集人を務めた船水公明の旧蔵資料を中心に展示し、「座標」に集った人々の活躍を振り返ります。



「座標」創刊号
（昭和5年1月1日発行）

◇期 間

令和4年4月11日(月)～5月15日(日)

※予定が変更になる場合があります

9:00～17:00 入館無料

※休館日：4/28(木)、5/11(水)

◇会 場

青森県近代文学館企画展示室
（青森県立図書館2階）

見どころ① 「座標」創刊号・竹内俊吉俳句集『雪』・高木恭造津軽方言詩集『まるめろ』初版本等、貴重な雑誌や図書

見どころ② 竹内俊吉・淡谷悠蔵・船水公明・丹羽洋岳・高木恭造・今官一・和田山蘭・林柁次郎の直筆色紙

※最新情報は、ホームページまたは電話でご確認ください



はじめよう電子書籍



青森県立図書館では、令和 4 年 2 月 22 日火曜日から、専門書や学術書を中心とした電子書籍サービス「KinoDen(キノデン)」を開始しました。



お手持ちのパソコン・タブレット・スマートフォンから、当館のホームページの「Myライブラリ(※)」にログインすれば、24時間いつでもどこでも閲覧することができます。

閲覧できる電子書籍は、今後も増やしていきますので、是非ご利用ください。

※「Myライブラリ」へのログインには、利用者カード番号及びオンラインサービス用パスワードが必要です。

利用者カード及びオンラインサービス用パスワードは、青森県内に在住・通勤・通学・帰省先のある方であれば、どなたでも発行できます。

詳しい発行方法については、当館の閲覧室カウンターにお問い合わせいただくか、当館ホームページをご確認ください。

青森県立図書館のホームページはこちらから

URL : <https://www.plib.pref.aomori.lg.jp/>



こどものひろば



1年前、2021年2月号のこのコーナーは・・・、
“新しい年を迎えても、新型コロナウイルス感染症の拡大は収まらず、連日報道される感染者数に、子ども達もご家族の方も、気の休まらない日々が続いているのではないのでしょうか。”という書き出しで始めました。

1年後の今、諸外国で感染増大を引き起こした変異株（オミクロン株）が日本でも第6波として猛威を振るい、子どもたちと高齢者への感染が広がっています。昨年以上に保護者・ご家族の皆さんの心配は、大きいのではないのでしょうか。

新型コロナ感染症ができるだけ早く収束し、子どもたちが元気に、以前のような新学期、春を迎えられるよう願っています。



図書館は、本を探したり、貸し出しするための“パソコン”や“ソフトウェア”を新しくするために、1月から、お休みをしていました。絵本が見たい、本を借りたいと待っていてくれた皆さん！いよいよ、4月11日から開館します。

児童室は、パソコンが新しくなっただけじゃないよ！みんなの「見たい！」「知りたい！」「調べたい！」そして「読んでみたい！」を応援しようと、いろいろ新しくしました。今回は、こんなことができるようになったよ！新しくなったよ！を、紹介します。

§インターネットを使いまくれ！§

インターネットが使えるパソコンが、1台から4台になりました。

JAXA「ファン！ファン！JAXA！」のLIBRARYキッズで宇宙ステーション体験、気象衛星ひまわりで今の地球の様子をリアルタイムで見ることや、消防や警察、電気のことなど、たくさんのことを見て、調べることができるよ。

みんなが住んでいる「青森県」のことなら「青森県キッズページ」

を見てね。三村申吾知事が待っているよ！



パソコンは、2台がタブレットです。

画面を見ながら、広げたノートに調べたことを書くことも簡単！ おすすめは、「ルール電子図書館」

「しらべ学習館」！

「食べ物」や「農業」専門の出版社さんが、みんなに、知ってほしいこと、考えてほしいことを、楽しく体験できるホームページにしてくれました。



「しらべ学習館」は、「おもしろ畑の虫ずかん」や「わくわくお料理じっけんしつ」「おいしい野菜の見方育てかた」など、楽しい部屋がたくさん！



「ビデオ版そだててあそぼう」では、野菜たちが、育て方や食べ方などを案内してくれるよ。家族やきょうだいで一緒に見てね！

※ルール電子図書館は、県立図書館が契約しているデータベースです。お家では、観ることができません。児童室でお楽しみください。



§ 百科事典も貸出します。§



百科事典の『ポプラディア』（ポプラ社）みんなの学校の図書室にもあるよね！

「百科」というのは、「ありとあらゆること」で、みんなの「知りたい」「調べたい」に、絵や写真をたくさん使って、わかりやすく答えてくれる、とてもたよりになる事典です。

ジャジャ〜ン！ その『ポプラディア』が新しくなりました。そこでみなさんに、もっと、も〜っと！使ってもらおうと、児童室では、貸出をすることにしました。

宿題の調べものだけでなく、家族で旅行に行く前に、行き先の町や歴史を調べてみたり、みんなが調べたことを、お家のひとに教えてあげたり、使い方はいろいろ！



さて、ほかにも、図書館の本を探すパソコンが増えたり、展示も新しくなっています。どこが変わったか、図書館に来て探してね。



最後に、児童室奥・ミニ展示コーナーで、「**家族で探検しよう！科学の世界**」と題し、こどもの本だけではなく、家族の方も一緒に、本に触れてもらう展示を行っています。

展示している本は、日本唯一の自然科学の総合研究所である理化学研究所（理研）と、松岡正剛さんが所長をされている、本の可能性を追求している編集工学研究所が行っている「科学道 100 冊プロジェクト」で紹介された本です。

「科学道 100 冊」プロジェクトは 2017 年にはじまり、今回（2021）が 5 回目となります。この間に、「科学道 100 冊ジュニア」と題し、こども達向けの 100 冊も公開しています。

新型コロナウイルスの流行などにより、科学の重要性が一段と増すなか、今回の展示では、大人とこどもが一緒に、科学に触れ、考え、話をする切っ掛けとなればと思っています。



2022 年 2 月 4 日から 2 月 20 日まで北京 2022 冬季オリンピックが、3 月 4 日から 3 月 13 日まで 2022 冬季パラリンピックが開催され、ウィンタースポーツが盛り上がっていますね。

青森県では、ウィンタースポーツを体験できるところがとて多く、スキー場だけで 10 か所以上あります。その他に、1985 年に完成し、今も多くの人でにぎわう青森県営スケート場や、スノーサイクリングやスノーモビルの

試乗体験ができるスノースポーツパーク青い森など、幅広い施設で青森の冬を体感することができます。

そこで今回は、青森県のウィンタースポーツを支えてきたスポーツ団体に関する、当館所蔵の郷土資料を 3 点ご紹介します。

『樹林を縫って 青森林友スキー史』(林野弘済会青森支部 1982)

青森林友スキー部は、冬山における森林調査など仕事のためのスキー技術向上を目指し、青森大林区署(後の青森営林局)が大正 15 年に設立。オリンピックに選手を派遣するなど、戦前・戦後に渡り活躍した団体です。

大正 5 年のスキー導入、昭和 14 年に発生した遭難事件、昭和 25 年から行われた林団対抗スキー大会など、青森営林局がたどった歴史を詳しく記しています。



『HUMAN DOCUMENT』(青森県スキー連盟 2005)

大正 14 年に設立され、平成 17 年に 80 周年を迎えた青森県スキー連盟が発行した記念誌です。

第 3 章では、「青森県スキー連盟の歩み」と題して、大正 12 年 3 月に行われた第 1 回全日本スキー選手権東北予選会から、平成 17 年 3 月に行われた第 19 回岩木山スキーマラソン大会までの、青森で行われた主要なスキー大会の記録が詳細に記されています。

『銀盤の歩み』(青森県スケート連盟 2002)

青森県スケート連盟が発行した創立 75 周年記念誌です。

青森県内の主要大会の結果や、青森県選手の世界大会出場記録が記されています。また、「あの日あの頃」として、青森県スケート連盟元会長や選手などが当時の思い出をつづっており、当時の大会の興奮や、合宿の様子などを詳しく知ることが出来ます。

今回ご紹介した資料は、いずれも館外への貸出が可能ですので、どうぞご利用ください。

ようこそ文学館へ！

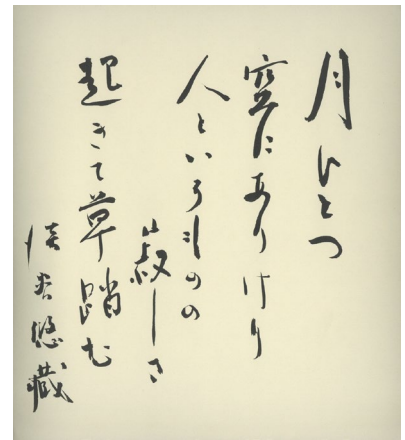
近代文学館資料の紹介(第41回)

青森県近代文学館では、令和4年4月11日(月)から5月15日(日)まで、企画展「「座標」に集った人々展」の開催を予定しています。今回は、展示予定資料の中から「座標」の中核を担った2人に由来するものをご紹介します。

①淡谷悠蔵色紙

「月ひとつ空にありけり人というものの寂しさ起きて草踏む」

淡谷悠蔵(1897～1995)は青森町(現・青森市)の商家で生まれました。家業を手伝う中、友人の誘いで短歌と出会い、大正7(1918)年には新城村(現・青森市新城)に移り農業を始めます。当館所蔵の色紙に書かれた短歌は、この頃の生活に基づくものと見られます。



その後、淡谷は短歌雑誌「黎明」(大正8年創刊)の中心人物となり活躍しました。「黎明」は次第に評論や小説も掲載するようになり、この流れが文芸雑誌「座標」の誕生へと繋がって行きます。

②竹内俊吉俳句集『雪』(昭和24年5月、青い森社刊)

※船水公明旧蔵資料、初公開

西津軽郡出精村(現・つがる市)生まれの竹内俊吉(1900～1986)は「東奥日報」記者として活躍しながら「黎明」に小説を寄せました。昭和4(1929)年9月22日には「県下統一の文芸雑誌発刊の提唱」を「東奥日報」の日曜特集版である「サンデー東奥」に発表。「県下の芸術運動のためにも、その方が強力である」と述べました。この竹内の呼び掛けによって「黎明」をはじめとする8雑誌が統合され、昭和5年1月に誕生したのが「座標」でした。

その後「座標」は、1年程で統轄的事務の責任が竹内俊吉から淡谷悠蔵へと移り、時代の趨勢もあって昭和7年8月号を最後に廃刊となりました。「座標」の立役者だった竹内は、政界に転じた後も俳句や書をたしなみ文人として知られていましたが、生前に刊行した著書は、共著を除けば、この俳句集『雪』が唯一です。大変珍しい本ですが、当館では近年、「座標」の編集人を務め竹内俊吉と親交の深かった船水公明(1898～1972)旧蔵の一冊を収蔵することができました。



カウンターからひとこと (第40回)



今回は、システム更新で変更があったサービスについてご紹介します。

当館では、これまでも数年に一度、図書館システムの更新を行ってきました。

今回は新たに富士通システムへ全面更新を行い、館内の検索システムやインターネットでの検索・予約画面が新デザインになりました。

また、当館ホームページには「Myライブラリ (マイページ機能)」が導入されました。

ご自身でお気に入りの本をまとめたり、借りた本の履歴を残したりすることができるようになります。(貸出履歴の保存は初期設定ではオフになっています。ご自身での設定が必要です。)

長期休館の間にカウンターの周辺もリニューアルしました。

- 貸出・返却カウンターがコンパクトになりました。
これにより、返却されたばかりの本を一時的に取り置く書架から本をお手にとってご覧いただけるようになります。
- マイクロリーダーや新聞データベース、コピー機の設置場所を入口側へ移動しました。
複写のお申込は入口近くの1番カウンターへお願いいたします。
- マイクロリーダー、新聞データベース、インターネット席、電源供給席に座席予約システムを導入しました。
ご自身でお好きな席を選んでご利用いただけます。

新しいサービスが増えました！
ご不明な点がございましたら、お気軽にカウンターまでどうぞ。



